

課題

現在、整備済箇所が少なくバリアフリールートが限定される

平面での分岐に加え、地下部～地上部に至るまで階層が3つに分かれているため移動選択の局面が多い

目的地まで安心・安全に繋ぐ歩行空間ネットワークがあるにもかかわらず、『目的地までの移動の仕方』が分からない

ユビキタス技術の活用

目的

様々な情報を提供することにより、バリアフリーエリア内をより安全・快適に回遊できるように支援する

項目 実験	実験期間	実験目的	調査方法	参加者数
第1期	平成18年 11/3(土) ～11/5(祝) 計3日間 (大道芸ワールド ドカップ期間中)	<ul style="list-style-type: none"> ・第二期実証実験に向けてのプレ実験 ・ユニバーサルデザインの認識、ユビキタス技術の有益性などについてPRする 	記述式 アンケート調査	85名
第2期	平成18年 12/11(月) ～12/22(金) 計10日間 (土日は除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者にとって、移動に必要な情報のあり方の検討 ・地下道での移動経路案内など、ユビキタス技術で可能な項目を取り入れ、利便性などを検証 	ヒアリング式 アンケート調査	104名